



森のなかま

2022年4月号
NO.166 (継続311号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《森林文化部会主催》

森林文化講演会 「丹沢の森とツキノワグマ」

講師 長縄 今日子様

日時： 2022年2月13日(日) 14:00~16:00

場所： 県立秦野ビジターセンター

スタッフ： 森林文化部会 真貝⑪、内野⑨、井出①、末原⑮、菊地①、石井⑮

参加者インストラクター：15名

(記 写真 石井 裕⑮)

立春を過ぎた2月13日(日)。県立秦野ビジターセンター。午後になっても生憎の曇り空で、丹沢の山容はガスに覆われ、所々に森が顔を出している。そのどこかに今回の主人公『ツキノワグマ』がいるのでしょうか。

第13回目を迎えました森林文化講演会。昨年はコロナ禍によりオンラインでの開催でしたが、今年は参加人数を制限することをコロナ対策として行い、実開催させていただきました。

早々に定員15名の枠が埋まり、皆様の講演会に対する御関心に文化部会一同、感謝いたしております。ありがとうございました。又、参加出来なかった方々には、後日配信予定のYouTubeでの収録画像を御覧頂きたいと思っております。

さて、今回は同館の館長で、丹沢ツキノワグマ研究会代表でもある長縄今日子様をお迎えしての講演会となりました。まず講演テーマとして、単一の生き物の生態を題材にした講演会は初となったのではと思います。そして、私達にとっても馴染みの深い『シカ』や『野鳥』などとは違い、筆者を含め、ほとんどの方が遭遇された経験がないか、或いは限りなく少ないか、と思われる生き物でもありますし、30年以上研究をされている先生でさえ、まだまだ謎の部分があるそうです。それ故に、大袈裟かもしれませんが、未知なる想像でしかない『ツキノワグマ』という生き物のお話を楽しみにしておりました。

講演は先生の優しい語り口で始まりました。食物となるドングリなどの話から分布域、痕跡調査、さらに糞の分析などなど、丁寧に分かり易く解説いただきました。特に、分布域の拡大や個体数の推移など、環境変化によるものと思われるお話については、やはり人間である私達の責任を感じずにはいられませんでした。また、遭遇した場合の対処法などのお話を聴くと、やはり『クマ』である、という事にも気がひき締められました。

会場の都合上、1時間30分という時間制限で、聴き足りなさも感じましたが、終わりに先生がお持ち下さった『クマキット』を参加者が手に取る中、私はその中の丹沢で駆除されたというツキノワグマの毛皮を手にとってみました。そこには厳しくも優しい温もりを感じ、少なからず『愛しさ』も感じてしまいました。



《普及啓発部会・森林文化部会 合同研修会》

森林環境教育・クラフト制作等の指導者育成のための研修会

- 1.日時・場所：2022年3月6日(日)9：30～15：00 やどりき水源林広場・集会棟横
- 2.指導者：環境教育（足立①、松本⑩）、クラフト制作（高橋③、森本⑤、菊地①、内野⑨）
- 3.参加インストラクター：20名（指導者を含む）
- 4.目的：①森林環境教育において、樹木や森林が持っている役割について、実験を通して体験できるよう進め方を解説し、指導者を育成する。
②ネットワーク活動やキャンペーン活動等で、クラフト制作の催しが広く行われており、これら活動の指導者を養成する。（ノウハウ、注意事項の伝授）

（記・写真 井出 恒夫①）

【1】森林環境教育（カッコ内は指導者）

（1）水源涵養実験（松本）

裸地を模した箱と、森を模した箱の両方に、ジョウロで同じ量の雨を降らせ、それぞれの表面から流れ出る水と箱の底から流れ出る水を計量し、浸透能力の差を定量的に導き出します。森が緑のダムであることを、実験を通して体感することができます。



（2）木がため込んでいる二酸化炭素の量を測ろう（足立）

対象エリアにある木の幹の太さを測り、それぞれの木がため込んでいる二酸化炭素の量を算出し、測った木全体ではどれだけに量になるかを、対照物（人や車などのCO2排出量）と比較して定量的に実感することができます。



【2】クラフト制作

- （1）どんぐりクラフト（高橋）
- （2）シュロバッタ（森本）
- （3）葉巻笛（森本）
- （4）書けない鉛筆（高橋）
- （5）ミニ下駄（内野）
- （6）ぶんぶんゴマ（菊地）

数名のグループに分け、順番に各グッズの制作を行いました。盛りだくさんのテーマで時間に追われましたが、制作のポイント・指導する際の注意点等はつかめたのではないかと思います。



<次ページ参加者の感想に続く>

<参加者の感想>

普及啓発部会および森林文化部会の研修は初めての参加です。

諸先輩方の熱い思いが感じられるカリキュラムで、手作りの丁寧な資料からも滲み出ていました。水源涵養実験は「森のダム」を体感し水源林整備の重要性を再認識することが出来ました。また各種クラフト制作では童心に戻り、ものづくりの楽しさを純粹に楽しみました。

インストラクターとしては、まだまだ技術が未熟なので、反復練習を行い自信が持てるよう頑張ります。
(記 大友 博道^⑩)

水源涵養機能の実験と樹木の二酸化炭素吸収量の測り方の講義では実際に森林教育で使用する実験ノートを使いワークを交えて学びました。

二酸化炭素吸収量の算出では落葉広葉樹と常緑広葉樹で吸収量の違いがある事も学ぶことができました。クラフト作成では作品の作成手順だけでなく作品を作る過程での注意点や指導する際の声掛けなど、自由な発想で楽しく且つ安全に配慮した指導法を学ぶことができました。

今後の森林環境教育活動に今日学んだ内容を活用して行きたいと思います。(記 堀口 俊司^⑪)

かながわ森林インストラクターの会紹介 (広報部)

「森のなかま」2月号から掲載している組織の紹介です。今回は、スタッフ部門から「広報部」になります。

広報部

広報部のミッションは、会報の作成です。

かながわ森林インストラクターの会では、毎月ご覧の会報「森のなかま」「本紙」と会員向け連絡をまとめた「別冊」を発行しています。

広報部のメンバーは、本誌、別冊編集者各1名、会報印刷・発送作業員、特に年3回の全員紙発送時には、10人程度の方が集まります。紙発送以外に会員向けメール送信、ホームページへの掲載、パートナー向けメールのお知らせなど総勢15人からなります。

「本紙」には、イベントの報告、インストラクター研修会の報告、連載記事「森のめぐみ」、会員の投稿記事のほか、「活動短信」として、県民参加の森林づくり、ネットワーク活動(パートナーと学校関係)における活動の報告を掲載しています。いずれの原稿もインストラクターの会のメンバーが執筆しています。

「別冊」には、理事会、運営会議などの議事録、各部、各部会、事業部などの活動予定、ネットワーク管理部からの森林活動へのインストラクター派遣出番表、派遣者募集表を掲載しています。

昨今の話題では、コロナ禍によるイベントや森林活動の休止で、一昨年には、会報休刊という事態になりました。記事の不足は続いていますので、会員の皆様へのお願いです。

- ・活動短信、イベント等の記事の速やかな投稿
- ・身近な話題等の原稿を募集しています。積極的に投稿願います。

広報部では、メンバー募集しています。 会員の皆様よろしくお願ひします。

- ・word,excelの基本的な操作ができる人
- ・会報のイラストを描いていただける人
- ・印刷、発送作業を手伝っていただける人

(記 広報部長 黒川 敏史^⑫)

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

春先に風に乗って空中を舞い、人を悩ませるスギ花粉。スギ花粉による花粉症に悩まされる人もいることでしょう。そのスギ花粉症をスギの香りで抑えると言え、**「えっ」と驚くかもしれません。**昔、猟師の人たちはスギの葉の煎汁を飲んで花粉症を防いでいたと言われています。その頃には花粉症という言葉はなかったかもしれませんが。

平安時代に中国の文献から引用して書かれた日本に現存する最古の医学書「医心方」を訳した榎佐和子さんがスギの葉の煎汁が花粉症に効くと言っています。榎さんは中国の文献を読んでいてスギが花粉症に効くという記事を見て、中国のスギは日本のスギとは樹種が違う広葉杉(コウヨウザン)であることを知りつつも、スギ葉を煎じて試したら効果があったということです。どのような成分がどのように効いているのかはわかりませんが、コウヨウザンもスギも似通った成分が入っていることによるものでしょう。

スギ花粉から取り出したアレルギーを起こしやすい物質をモルモットの腹腔内に注射してアレルギーを起こやすくしておき、モルモットにスギ花粉を吸入させます。次いでスギ精油を鼻腔内に注入してスギ花粉を吸入させるとクシャミ回数が精油を注入する前よりも半分以下に減り、鼻汁は15%ほどにまで減ったという報告があります。

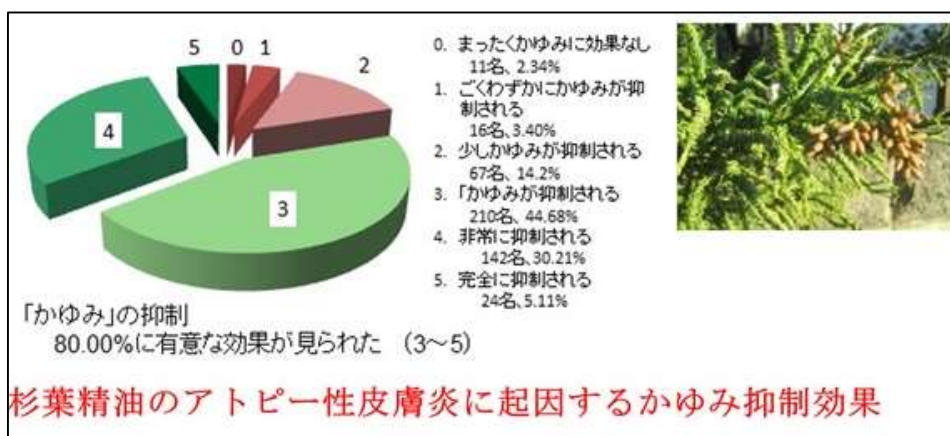
スギ葉精油を鼻の周囲に塗布してにおいをかがせる状態にして花粉を吸入させると精油を塗布しなかった場合の62%にまでクシャミ回数が減ったという結果も得られています。スギ葉の香りが花粉症の症状をやわらげているのです。

スギ葉の煎汁は湿疹などの皮膚病にも聞くと言われていいますし、アトピー性皮膚炎のかゆみをやわらげる働きもあるのです。アトピー性皮膚炎については複数の皮膚科の専門医によってアトピー性皮膚炎患者

第44回 花粉症やアトピー性皮膚炎に効果のあるスギの香り

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

を対象に確認されています。スギ葉精油をマカデミアナッツオイルに混入し、患者のかゆみのある皮膚に塗布し、真皮に届くように手の平で軽くたたき、その後のかゆみの症状が調べられています。その結果、かゆみが抑制される、非常に抑制される、完全に抑制されると答えた人を足し合わせると被験者数の80%になりました。スギ葉精油がアトピー性皮膚炎のかゆみを抑えるのに効果があることが確認されたのです。



スギ葉精油は柑橘類のようなさわやかな香りを持ち、最近ではアロマテラピー用や室内芳香剤として利用されるようになりました。その香りにはストレスを解消し、リラックス効果があることも分かっていますし、スギの香りに森林浴などで屋外で触れるばかりでなく、室内で身近に触れる機会も多くなってきました。そのような動きの中でスギ葉精油の安全性も確認されています。

精油をラットに投与して毒性を調べる試験ではかなりの量を飲まない限り安全であることが分かっています。また、生物のDNAや染色体の遺伝情報に変化を起こし、発がん性や催奇形性の原因となる毒性を調べる試験でも異常な現象は認められていません。モルモットに皮内注射や貼付試験をした結果でも感作性がないことも明らかにされています。

花粉症を起こす厄介者のスギ花粉ですが、その反面さわやかな香りを発散する葉の香りにはこんなに良い働きがあるのです。

(図、写真 提供：谷田貝先生)

活動短信

今回の掲載はR3年12月14日から2月5日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

4月(卯月)(旧暦3月弥生)の

二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

清明 4/4 頃

桜の満開は、年々早くなっていますが、寒い今年、この頃でしょうか。

穀雨 4/20 頃

田んぼの耕し(田うない)が始まります。燕が飛び交い、泥をとって巣作りです。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスみどり財団、 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

インストラクター① (○数字:期) 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立桜岡小学校 間伐体験

日 令和3年12月16日(木) 9:30~13:00 晴れ

場 長竹分収林

参 101名(5年生児童91名 教師10名)

財 豊丸課長、古舘氏

L 内野⑨、佐藤⑤、小野⑦、松山⑩、松本⑪、西出⑫、松石⑬、牧石⑭、大友⑯、小林⑰

朝からきれいな青空の晴天に恵まれました。そのため、冷え込みも厳しい朝でした。

前日、愛川ふれあいの村に宿泊した皆さんは予定通りの時間に、葦尾根ふれあい広場に到着しました。バスから降りるとスムーズに班編成が出来て、9班別々に道具配布場所まで移動しました。

途中、道路脇に霜柱が出来ているのを見つけた班もあって、大いに盛り上がり、子供によっては、自分の住む地域との自然の違いを感じた様で、すばらしい体験活動のスタートになった様です。

道具を受け取り、ヘルメットを被ると引き締まった表情になりますが、間伐地までの山の登りでは、少し緊張が解けた様な会話が出てきました。



間伐木は20年前後のヒノキです。間伐場所は枯れ枝が散乱していて、斜面も急な所があり、今日の安全目標の「足元に注意」を改めて確認して作業を開始しました。斜面が苦手な子どもがいたり、元気すぎる子どもがいたりして、インストラクターが全員の状況を把握して適切な配慮をする必要がありましたが、全班とも無事に



予定通りの時間内に、伐倒、枝払い、コースター作りまで修了出来ました。伐倒の瞬間の驚きの顔とコースター作りで必死頑張る顔と子供たちの表情は体験学習の成果を現わしているのでしょうか。

学校では、間伐についての予備学習をある程度は済ませてきている様で、子供たちの取り組み姿勢が熱心で、知識も身につけている子が見られました。また、「楽しかった」「木を切るのは大変だと分かった」などの感想を発表した子どもがいて、充実した体験になったのではないかと感じました。(記・写真 松石 藤夫⑬)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立下野庭小学校

環境・エネルギー学校派遣事業

～かながわ環境教室～

「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和3年12月14日(火)14:00～16:00 曇り

場 横浜市港南区野庭町602 下野庭小学校

参 環境委員会の5・6年生12名、教師3名

イ L井出①、足立④、堀江④

この学校では絶滅危惧種に指定されている野生メダカを飼育しています。授業では、ビオトープの生き物調査・植生調査を行い、ビオトープの維持管理の進め方について解説を行いました。

- ① 植生調査：浮葉植物のトチカガミは越冬のため枯れ、周囲の樹木からの落葉も多い。水質を維持するために落葉の除去を指示しました。
- ② 採取：手網（タモ網）で、メダカやヤゴなどの生き物を採取。また、プランクトンネットでプランクトンを採取しました。
- ③ 観察：網で採取した生き物は白バットに移して抽出し、詳しく観察しました。またプランクトンネットで採取したミジンコなどは、マイクロスコープでPCに映し出し観察しました。
- ④ 解説：メダカの生態、生態系（生き物のつながり）、野生のメダカが減少した理由、ビオトープの維持管理方法（植物の管理、水の管理等）などについて解説しました。



今回の対象は環境委員会の5・6年生ということで関心も深く、メダカのことやビオトープの維持管理について理解が深まったと思います。

(記・写真 井出 恒夫 ①)

◆ 横浜市立岡津小学校 愛川宿泊体験学習

日 令和4年1月13日(木) 9時20分～12時20分 晴れ

場 相模原市 長竹承継分収林

参 101名(先生9名、児童92名)

財 古舘様、他1名

イ L 西出⑫、佐藤⑤、齋藤⑧、内野⑨、松山⑩、山口⑪、松石⑬、牧石⑭、大友⑯、小林⑰

好天の下、予定通り、間伐体験を行いました。9班に分かれて、各班、大きなヒノキを1本間伐して、倒した木から各人がコースターを切り出して、貴重な間伐体験を終える事ができました。

子供達はヘルメット、フェースシールド、枝打鋸を装着して、共用の大鋸2本、長ロープ、滑車等を持って、インストラクターを先頭に現場に向かいました。

まず、森林に関する基礎的な話をした後、直径約15cm、樹高約10mの樹齢25年程のヒノキの間伐を行いました。選木された木にロープを掛け、倒す方向にロープを伸ばして途中で滑車を用いて向きを変えます。準備ができると、順番に大鋸で受け口、追い口を入れて、みんなでロープを引くと、メキメキと言う幹の裂ける音がして地響きと大きな音を立てて木が倒れました。思わず子供達から歓声と拍手が起こりました。

倒した木は、みんなの持っている枝打鋸で枝を切り落として、2～3mの長さに玉切りした後、一人ずつ、コースターを作ります。大鋸で硬質のヒノキを切るのは大変ですが、自力でコースターを作ると達成感があります。子供達は香りのいいコースターをお土産に帰路につきました。 (記 西出 健一⑫)



緑の募金
シンボルマーク



緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 横浜市立笠間小学校 ～森林・林業に関する学習授業～

日 令和4年1月14日(金)8:45～10:20 晴れ
場 笠間小学校体育館
参 小学5年生 101名 校長先生 担任3名
イ L 柏倉④ 大友⑩ 加納⑯

2月2日(水)に実地予定の間伐体験を踏まえた学習授業でした。

事前学習で授業を設けるほど、とても熱心な先生でした。神奈川県内の森林のことや税金のこと、林業のことをプロジェクターで子供達に伝わるようリーダーが説明をしました。実際にスギ、ヒノキの葉を触ったり、においをかいでもらったり、近所の神社の鎮守の森やマンションの中にある身近な雑木林を紹介し、親しみを持ってもらいました。



全ての話が終わった後、各クラスごとに別れて、林業クイズの答え合せをしました。森の役割と林業についてのおさらいと、私の好きな分野の自然観察、コブシのふわふわの冬芽をさわってもらったり、この時期に咲く梅の花やロウバイの花(なぜこの時期の花はいい香りがするのか)冬鳥の話(どこからきて何のために日本にきているのか)など、ツグミやジョウビタキ、オオバンの写真を見せながら説明しました。身近な生き物の話が一番質問も多く、聞く体勢が違いました。冬でも春の準備をしたり、野鳥も観察しやすかったりと森林や環境問題に関心を持ってもらえたら嬉しいです。

(記 加納 裕美⑯)

◆ 第19回 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 令和4年2月5日(土) 9:00～12:30、晴
場 大磯町西小磯
参 64名
財 豊丸様、大木様、藤本様
看 青木様
町 大磯町産業観光課 弘重様、加藤様
スタッフ 県森林組合連合会 岡本様
イ L 岩田⑭、古館⑬、吉田⑪、角石⑮、松本⑩、柏倉④、中澤⑯、森本⑤、永田⑯、大友⑯、上宮田⑪、堀口⑯、黒川⑭、野村⑭、祐谷⑯、西村⑮
安パト 湯浅⑪、鈴木⑭

立春をすぎても底冷えのするものの抜けるような晴天の下、JR大磯駅に集合。ここから作業場所の西小磯まではいつものバスではなく、受付を済まされた方から各々徒歩での移動をお願いしました。現地までの所要時間は約30分でしたが、経路は全般に平坦で線路沿いから住宅地を抜け、ゴールは大磯のイメージとはかけ離れた田んぼが広がる田園地帯となかなか変化に富んでおり、作業前に体を温めるのに程良い道のりでした。

田んぼの中に集合してオリエンテーションの後、真竹の竹林、ササの藪、孟宗の竹林と、植生も状況も各班各様にバラエティに富んだ担当エリアに分かれて作業を開始しました。

私が担当した3班の受け持ちエリアは、2年前の県民参加活動の後、すっかり生い茂った真竹を皆伐するエリアでしたが、参加者の皆さんはベテランの方も多く想定以上にテキパキと作業は進み、終了時には生い茂っていた竹が嘘のような雑木林に姿が変わっていました。

作業終了し閉会式も終わった頃には、朝の晴天とは打って変わり寒風が吹きすさむ、今にも雪でも降り出しそうな曇天に。参加者の皆様は、昼食もそこそこに地元の方から差し入れていただいたミカンとお茶をお土産に早々に帰途につかれた方が多かった様ですが、充実した時間を過ごしていただけたのではと思います。

(記 西村 充弘⑮)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、3 月から再開しました。森の案内人がお待ちしております。水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース 3 月号 発行しました。



やどりき水源林に 春の息吹き !!



3 月 5 日 (土) に、この奥山探訪ツアー、水源地コースを案内しました。春の息吹を感じながら、水源林の自然を満喫してください。この春は、春の息吹を感じながら、水源林の自然を満喫してください。

<< おもわぬ観察ができました。 >>



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

● 問合せ：
(公財) かながわトラスみどり財団
TEL : 045-412-2255
FAX : 045-412-2300
● ホームページ : <http://www.ktm.or.jp>

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当 : 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等・パートナー様向け担当>
柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>
【本誌】黒川 敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先 : 080-5477-2206
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫 (11 月号から)
Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

は随時受付けています。

★体調を壊して以来、体温調整が上手くいかず、酷い寒がりになってしまいました。春分の日を過ぎた寒の戻りが辛かった (泣)。氷柱見学の登山なんて、考えただけで体が凍ります。春が恋しいとブツブツ言っていたら...庭先からウグイスの鳴く声が。山に行くか! (竹内)

編集後記

★大河ドラマに影響されてか、歴史の町鎌倉のウォーキングを思い立った。ガイドは、永井路子著「鎌倉の寺」。5 回 (5 日間) にて 八幡宮・建長寺・東慶寺・円覚寺をはじめ、57 の神社仏閣・記念館を巡り更には敵の侵入を防いだり、物資運搬のために切り開かれた 7 口の「切り通し」全てをも歩いた。歴史を学ぶためではなくウォーキングが目的ながら、わび・さびいま・むかしを味わいつつのウォーキングは、疲れ知らずで格別と思えた。寺に植栽された各種の花木を思うと、花おりの出会いを求め 再びウォーキングしたくなる鎌倉だ。(中澤)

★3 回目ワクチン接種が 3/17 に完了。運動の筋肉痛感とよく似ていて、1 回目心地よい筋肉痛、2 回目少しオーバートレーニングの筋肉痛、3 回目試合後の筋肉痛で 6 日間も痛みが残りました。(1, 2 はファイザー。3 はモデルナ) (松本)

★横浜の桜開花宣言が 3/21 にありましたが翌日は雪まじりで寒かったですね。暖かい陽射しの下で桜の花見をしたいですがコロナ感染を考えると人混みは少し気が引けます。のんびり山歩きしながら桜に出逢える場所を探してます。(阿藤)

★絶対に正しい暮らし方や生き方が必ずあるはずだと思ひ信じ生きた。この世に絶対はないのか、無くても良い。「私は人生に無駄なことは一つもない」と私は信じている。第六次コロナ禍での蔓延防止は 3/22 で解除されることになった。ところで問題のロシアのコロナ感染者数約 1,800 万人死者数 75 万人と世界の平均値以上の感染者と死者数にある。一方ウクライナとの戦いでロシアが殺傷したウクライナ人は 7,000 人とも 10,000 人とも言われている。日本の年間交通事故死亡者数は 3,000 人である。国の権力者が人の命を奪っても良いと言う理論は通らない。我が身を犠牲にしてもボランティア活動に真剣に向き合っている森林インストラクターの活動こそ、世界の平和を先導するものだと信じている。(小林)

予定中のイベント

4/9 やどりき事業部 「桜三昧ハイキングへのお誘い！」

詳細は、上宮田まで; メール shinrin0704@gmail.com、

4/17 森林探訪 「黒川駅周辺」

詳細は、赤崎まで メール glaziocharis_abei@yahoo.co.jp

5/22 NW 活動 「緑の祭典 “かながわ未来の森づくり”」

詳細は (公財) かながわトラスみどり財団

ホームページ <https://ktm.or.jp>

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回 / 1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史
広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 阿藤壽孝
竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典 中澤良夫
支援: 大原正志 江頭淑子